

2. 文章作成のための予備知識

1. 音声によるコミュニケーション（話し言葉）の特質

（利点）

- 聞き手の理解度を目で確認できる。
聞き手の反応（表情、うなずき、返事、質問等）によって、話の内容を調節できる
- その場の状況や互いの理解・知識を聞き手との間に共有しているのので、話の内容の一部や説明を省略できる
- 自分の表情や身振り、声の強弱・高低、アクセント・イントネーションなどを表現手段として利用できる。

（欠点）

- 話し手の発話がその場限りで消えてしまう
- 聞き手は話し手の説明した細かいことを理解したと思いがちである。しかし、実際には後で思い起こすと正しく理解していないことがある

2. 文字によるコミュニケーション（書き言葉）の特質

（利点）

- 記録性に優れている。また、文章として残り、記録が（消さない限り）消えないので、自分の考えの道筋をたどりやすい。また、時間をおいて冷静になり、納得のいくまで読み直して（推敲）できる。
- 考えが深まる。「書いては読み直す」ことを繰り返すことで、思考が深まっていく。読み手の反応や理解過程などを何度も繰り返し、考えて文章を練るため、読み手との対話をじっくり意識でき、客観性を増す可能性が高い。

（欠点）

- 相手が目の前にいない。そのため、相手の様子を見ながら内容や説明の省略をするよ

うなことはできない。また、自分が書いたものへの反応がないので、自分で書き手と読み手の役割を果たさなければならない。

- 文字化しなければならない。話し言葉ではことばをそのまま口から発すればよい。しかし、文章を書くときには頭に浮かんだ内容を漢字仮名交じりの文に書き換えていかななければならない。また、文字化するときには誤字・脱字のないように十分な注意を払わなければならない。
- このほかに、書き言葉と話し言葉の違いや共通点があるか考えなさい。

3. 課題

1.と 2. の内容を踏まえ、前回提出した課題（「夏休みになにをしたか」）の自分の書いた文章をもう一度読み直し、気づいたことをふまえて内容を追加、および修正しなさい。

4. 読解

次の文章を読み、書き言葉としてふさわしいかどうか考えなさい。また、どのような点がふさわしくないかを考えなさい。

最近、フェイスブックをやっているいちばん対応に困るのは、全然会ったこともない人から友達申請がくるんですよね。いや別に、そういうシステムになってるわけだからさあ、申請してくれるのはかまわないと思うんですけど、しかしそれにしたってあれじゃないですか。別に会ったこともないのに友達になったところで、私の何を知ろうっていうんでしょうね。特に外国にいと、トルコの人もそうだしアゼルバイジャンの人もウズベキスタンの人も、ほんとに気軽にそういう友達申請を送ってくるっていう印象があって、なんかそのへんの感覚が日本人とは少し違うのかなっていう気持ちです。まあ怪しそうな人でなければ、できるだけ申請を受け入れようとは思っているんですけどね…

参考文献

清水明美（他編）（2011）『Practical 日本語 文章表現編—成功する型—』（改訂版）．東京：
おうふう．

林治郎・岡田三津子（編著）（2015）『新版 言語表現技術ハンドブック』．大阪：晃洋書房．